

管理職の多忙さと忌避感の実証研究

代表研究者 砂口 文兵
神戸大学 大学院 経営学研究科 准教授

研究要旨

本研究の目的は、管理職に関する多忙さが管理職登用に対する個人の忌避感に及ぼす影響を明らかにすることである。

近年、働き方改革やワーク・ライフ・バランスの推進に伴い、管理職には従来以上に多様な役割と責任が求められるようになった。その結果として、管理職登用が「罰ゲーム」として捉えられるなど、管理職への忌避感が社会的課題となっている。こうした状況について、既存研究はリーダーシップ開発や管理職の学習プロセスに主眼を置く一方、管理職になることを避ける心理や、その背景要因については十分に検討してこなかった。そこで本研究では、先行研究に関する批判的検討の結果を踏まえた質問票調査を実施することを通じて、管理職の多忙さと管理職登用に対する忌避感との関係を経験的に検討することを目指した。

本研究では、まず管理職の多忙さに関する概念（e.g., supervisors' busyness）や管理職登用に対する忌避感に関する概念（e.g., reluctance to lead）に関する先行研究を整理し、概念モデルおよび測定尺度を検討した。続いて、それらの成果をもとに質問票調査を実施し、得られたデータの分析を進めた。さらに、研究期間中には海外研究者との共同研究を新たに開始し、管理職登用に対する忌避感に関する国際比較研究へと発展させた。

本研究を通じて、管理職の多忙さと管理職登用への忌避感との関係を経験的データに基づいて検討することができた。さらに、本研究を契機に新たに開始されることになった国際比較研究によって、管理職登用への忌避感の普遍性と文化的差異を検討する研究基盤が構築された。今後は、研究成果を国内外の学会および学術誌で発信する予定である。